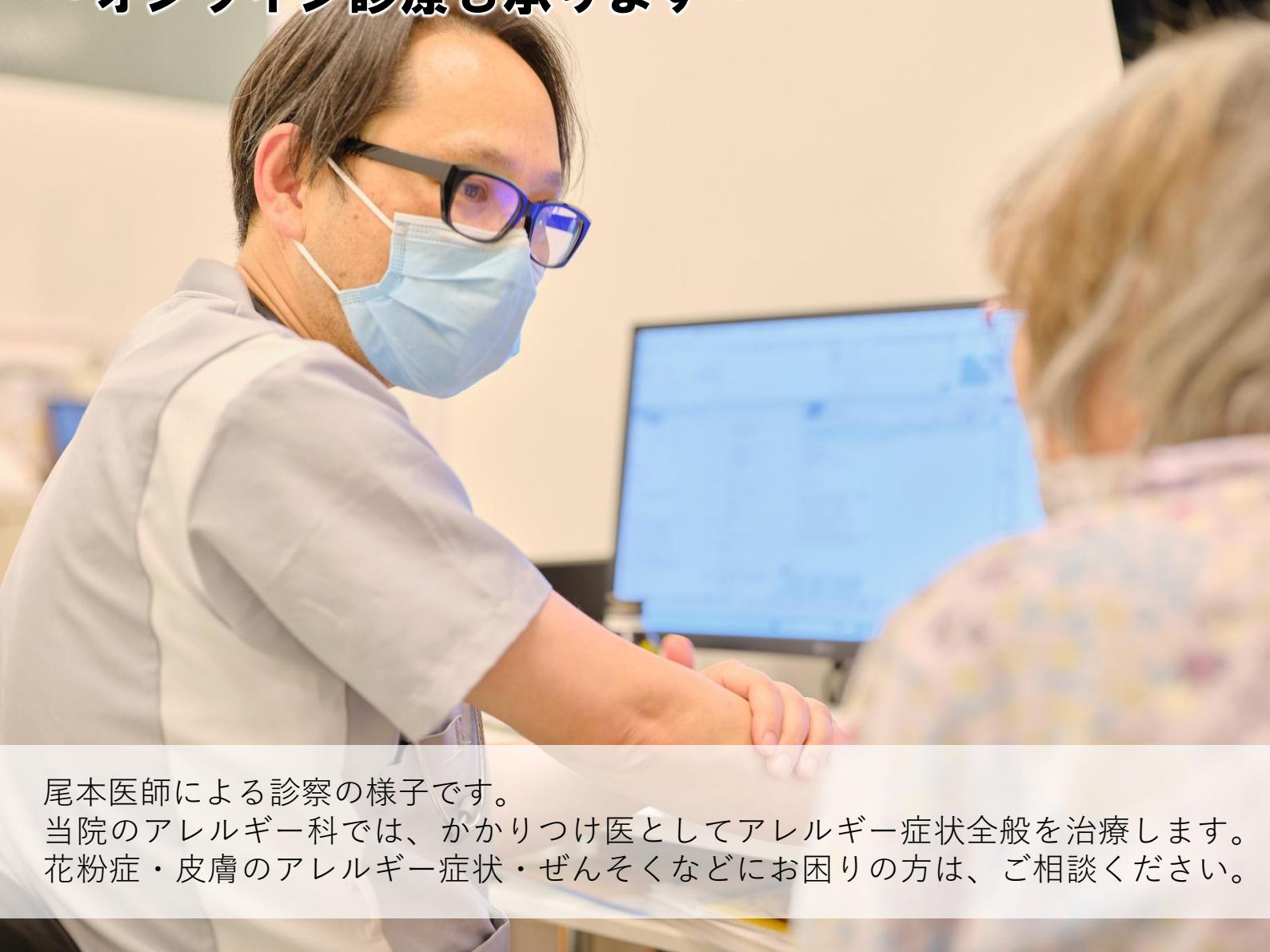


KOC通信

Vol.8
2025年 冬号

アレルギー科を新設しました ～オンライン診療も承ります～



尾本医師による診察の様子です。

当院のアレルギー科では、かかりつけ医としてアレルギー症状全般を治療します。
花粉症・皮膚のアレルギー症状・ぜんそくなどにお困りの方は、ご相談ください。



医療法人社団 小室整形外科医院

小室整形外科医院
リハビリ リウマチクリニック

SNS



ホームページ



整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科(膠原病外来)・皮膚科
アレルギー科・神経内科・オンライン診療(要予約)・ワクチン接種

〒616-8313 京都市右京区嵯峨野開町21 TEL : 075-871-0519

アレルギー科を新設しました

～オンライン診療のご予約も承ります～

アレルギー科について

令和7年9月より、アレルギー科を新設しました。診療は、毎週火曜午前と水曜午後に、尾本医師(非常勤医)が担当します。

アレルギーとは、本来は無害である物質(アレルゲン)に対し、体が過剰に反応する現象です。ウイルスや細菌から体を守るために働く免疫システムが、間違ってアレルゲンを攻撃対象として認識し、様々な症状を引き起こします。

<アレルギー疾患と症状例>

- **花粉症**
目のかゆみや充血、
鼻水・鼻づまり
- **皮膚のアレルギー症状**
発疹(ブツブツ)、かゆみ、
皮膚の一部のむくみ
- **ぜんそく**
息苦しい、咳が止まらない

当院の診療



尾本医師

花粉症は耳鼻咽喉科や眼科、アトピーは皮膚科、ぜんそくは内科へと、それぞれの医療機関を受診される方も少なくありませんが、当院では、かかりつけ医として、アレルギー症状全般を診ることができます。

通院が困難な方や、お仕事が忙しい方に向けて、『オンライン診療(要予約)』も行っています。初診の方も受診可能ですので、お気軽にご利用ください。

当院の治療方針

治療では、メリット・デメリットを共有し、患者様と共同で意思決定すること(Shared Decision Making)を心がけています。

治療では、投薬治療を環境調整を組み合わせます。投薬は内服薬・外用薬・点眼薬のほか、生物学的製剤による先端治療を取り入れています。

また、アレルギー症状を出さないための環境調整も行います。例えば、「アレルゲンに接触しないための工夫」や「住環境の

清潔保持」「早め早めの対応」など、患者様の症状に合わせて指導していきます。

もうすぐ花粉症の時期に入ります。「アレルギーかな?」と思われたら、当院にご相談ください。血液検査によるアレルギー検査や食物アレルギーのご相談もお受けしています。

オンライン診療の
ご予約



担当医表



ワクチンについて

インフルエンザの流行シーズンです。当院では、『インフルエンザ』『肺炎球菌』『帯状疱疹』『新型コロナ』の予防接種を行っています。

ワクチンには、①発症・重症化予防と②家族など周囲の人への感染予防の効果が期待されます。

●インフルエンザ

年1回、接種を行います。



●肺炎球菌

主に、1回の接種を行います。高齢者の死亡原因として多い肺炎の過半数を占める「肺炎球菌」による肺炎を予防します。

●帯状疱疹

生ワクチンは5年に1回、不活化ワクチンは10年に1回の接種を行います。

帯状疱疹の原因は、水ぼうそうと同じ「水

水痘・帯状疱疹ウイルス」です。症状は、帯状に現れる発疹や水ぶくれです。皮膚の症状が治まった後も神経痛が残る場合があります。

ワクチンは、皮膚の症状や神経症状を抑えます。

●新型コロナ

年1回、接種を行います。

新型コロナウイルス感染症になっても、重症な肺炎などになることを予防します。

特に、65歳以上の高齢者や基礎疾患のある方は、感染症にかかると重症化リスクが高いです。重症化を予防するためにも、予防接種を受けましょう。

<ワクチンのご予約はこちら>

WEB・電話・窓口、
いずれかからでもご予約可能です。



解説者：小室 尚 (事務長)

看護師
解説

地域の安心を守るために ～私たちの医療安全の取り組み～

医療安全とは、患者様が安心して医療を受けられるよう、事故やミスを未然に防ぐ取り組みです。人が行う医療は、個人の意識のみでミスを防ぐのが難しいです。

そこで、当院ではチーム体制で安全を支える仕組みを整えています。全国の医療事故を見てみると、転倒・転落が最も多く、



薬の間違いがこれに次ぎます。当院では、介護認定の患者様のケアプランを共有し、転倒リスクを個別に評価して対策を共有しています。また、投薬事故防止のために、6R(患者・薬剤・量・方法・時間・目的)を看護師2名でダブルチェックします。さらに、薬の処方では各薬局と連携し、他院処方や残薬もチェックして調整します。飲み忘れには一包化や認知機能確認を行うなど、生活面にも配慮しています。

医療安全には、患者様のご協力もお願いしています。医療事故を未然に防ぐために、本人確認やお薬手帳の確認をさせていただくことがあります。当院は地域に根ざした信頼される医療を目指し、今後も安全な医療の提供に努めてまいります。

解説者：堀 雅寛 (看護師)

連携施設
紹介

四条烏丸眼科 小室クリニック

～当院院長の妹の小室青院長にお話を伺いました～



四条烏丸眼科 小室クリニック

京都市中京区烏丸通錦小路上ル
手洗水町652 烏丸ハイメディ
ックコート4F・2F
TEL : 075-708-2304



四条烏丸眼科 小室クリニックは、四条烏丸駅から徒歩3分にあり、白内障・網膜硝子体疾患・緑内障・眼瞼の手術などを日帰りで行っています。京都府立医科大学病院や地域の医療機関、小室整形外科医院様と連携し、患者様の治療に取り組んでいます。

常勤3名と非常勤の医師が在籍し、眼科の各分野を専門的に診療できる体制を整えており、術前には、手術を安心して受けていただけるよう丁寧な説明を心がけています。視力の低下は認知機能にも影響すると言われ、認知症になると局所麻酔での手術が難しくなることがあります。適切な時期の手術がQOL(生活の質)を保つ助けになります。見え方に不安があればお気軽にご相談ください。小室整形外科医院様からの紹介予約も可能です。 (小室青院長 談)

地域取材

立命館大学映像学部 社会連携プログラム

～単に映像を創るのではなく、社会や文化、人生を見て理解する～



立命館大学映像学部
社会連携プログラムの
作品



映像学部では “Art Business Technology”をコンセプトに、ゲーム・映画・メディアアートなど「映像」を俯瞰的に研究・制作し、映像コンテンツを持って社会に関わっていくことを学びます。

映像学部「社会連携プログラム」の小室整形外科医院様との連携は2022年にスタートしました。今年は20名以上の学生が集まり、それぞれが「認知症と共に生きる」や「リハビリってなに?」などのテーマを決め、クリニックでの調査・撮影・映像制作・発表を行います。映像制作を通じて学生は、普段は見ることのない医療機関の現場や病気の方への対応を理解して、一般の方には難しい医療情報をわかりやすく伝えるコンテンツを制作します。小室整形外科医院様の協力で、学生も多様な経験をさせていたい azt感じます。 (宋教授 談)



医療法人社団 小室整形外科医院

小室整形外科医院
リハビリ リウマチクリニック

SNS



ホームページ



整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科(膠原病外来)・皮膚科
アレルギー科・神経内科・オンライン診療(要予約)・ワクチン接種

〒616-8313 京都市右京区嵯峨野開町21 TEL : 075-871-0519